

株主・投資家の皆さまへ

OLC

株式会社 オリエンタルランド

株主通信

【証券コード4661】

2007年春夏号

年2回発行

C O N T E N T S

2006年度の業績概況	● ハイライト	1
	● 連結決算レポート	3
トップメッセージ		5
中期経営計画: Innovate OLC 2010		6
イベントカレンダー		11
OLCフォーラム		13
会社情報		14
株式情報		14
株主の皆さまへのお知らせ		14
株主優待のお知らせ		15
諸手続きメモ		15



2006年度の業績概況

● ハイライト

東京ディズニーシー5thアニバーサリーの展開や、新アトラクションの導入効果などにより、2006年度の連結業績は増収増益となりました

2006年度は、これまで以上に東京ディズニーリゾートの魅力が向上した1年であり、東京ディズニーランドおよび東京ディズニーシーの2つのテーマパーク合計入園者数は、過去最高の2,581万人(前年度比4.2%増)となりました。また、2つのディズニーホテルやイクスピアリでは、それぞれの特徴や季節の商材を活かした積極的な営業展開を図りました。これらの結果、2006年度の連結売上高は3,440億円(前年度比3.4%増)、営業利益は341億円(同11.5%増)、経常利益は301億円(同13.1%増)、当期純利益は163億円(同3.9%増)と増収増益を達成しました。

(単位:億円)

	2006年度	2005年度	増減	増減比
連結売上高	3,440	3,328	111	3.4%
連結営業利益	341	306	35	11.5%



「東京ディズニーシー
5thアニバーサリー」



「タワー・オブ・テラー」



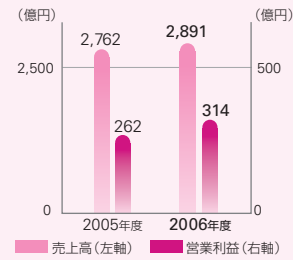
「リロ&スティッチのフリフリ大騒動
～Find Stitch!～」

テーマパーク事業



「2つのテーマパーク合計で4億人目のゲスト」

売上高・営業利益



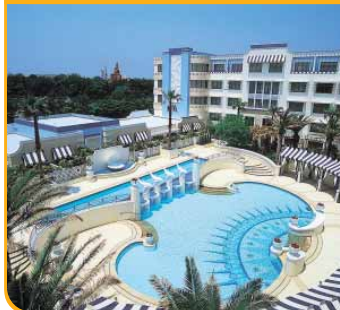
過去最高の入園者数を達成しました

東京ディズニーランドでは、ディズニー映画「リロ&スティッチ」をテーマにしたスペシャルイベント「リロ&スティッチのフリフリ大騒動 ～Find Stitch!～」をはじめ、1年を通じて季節にあわせた、さまざまなイベントなどを展開し、ご好評頂きました。東京ディズニーシーでは、7月より「東京ディズニーシー5thアニバーサリー」を開催したほか、9月には新アトラクション「タワー・オブ・テラー」を導入し、たくさんのゲストの皆さまをお迎えしました。これらの取り組みにより、2つのテーマパークの合計入園者数は過去最高となり、また、11月には2つのテーマパーク合計で4億人目のゲストをお迎えすることができました。さらに、ゲスト1人当たり売上高も、9月にチケット料金改定を行ったことにより前年度を上回りました。

東京ディズニーシー・ホテルミラコスタでは、「バルコニールーム」の新設や開業5周年のさまざまなプログラムを実施し、客室稼働率が前年度を上回りました。以上の結果、テーマパーク事業の売上高は2,891億円(前年度比4.7%増)、また営業利益は314億円(同19.8%増)となりました。

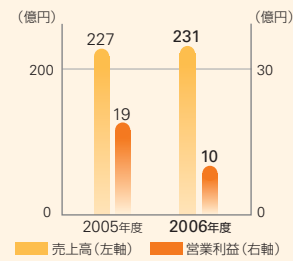


複合型商業施設事業



「ディズニーアンバサダーホテル」

売上高・営業利益



各施設において季節ごとのスペシャルイベントを開催しました

イクスピアリでは、例年ご好評頂いている「イクスピアリ・ハロウィーン」や「ピアリー・クリスマス」などの独自のイベントや、シネマイクスピアリで上映する映画と連動したイベントを開催するなど集客強化を図りました。

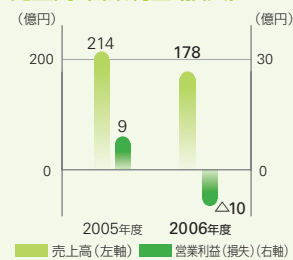
ディズニーアンバサダーホテルでは、全面的なリニューアルを実施、また宿泊ゲスト限定プログラムなどを積極的に展開しました。以上の結果、複合型商業施設事業の売上高は231億円(前年度比1.8%増)、また全面リニューアル費用の発生などにより営業利益は10億円(同47.9%減)となりました。

リテール事業



「ディズニー/ピクサー映画『カーズ』グッズ」

売上高・営業利益(損失)



業績回復を目指して、抜本的な改革に取り組んでいます

ディズニーストアでは、ディズニー映画の公開にあわせた関連商品の展開や、新規店舗をオープンするなど売上の向上に努めましたが、リテール事業の売上高は178億円(前年度比16.8%減)、また営業損失は10億円(同19億円の減益)となりました。

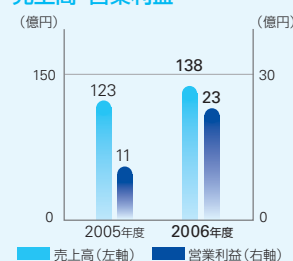
こうした状況の早期改善を図るため、12月より企業支援会社(株)リヴァンプと協働し、商品政策の見直しや業務改善、費用構造改革などに取り組んでいます。なお、2008年度には黒字転換を、2010年度には売上高210億円、営業利益率4%への回復を目指していきます。

その他の事業



「パーム & ファウンテンテラスホテル」

売上高・営業利益



パーム&ファウンテンテラスホテルの客室稼働率が大幅に向上しました

モノレール事業では、ディズニーリゾートラインで、東京ディズニーリゾートを訪れた多くのゲストにご利用頂き、12月には累計1億人目のゲストをお迎えしました。

また、ホテル事業では、パーム&ファウンテンテラスホテルにおいて、更なる認知拡大を図ったPR活動や、インターネット系エージェントなどの販路の拡大に向けた取り組みにより、客室稼働率は前年度を大幅に上回りました。以上の結果、その他の事業の売上高は138億円(前年度比12.3%増)、また営業利益は23億円(同98.0%増)となりました。

Point 1 売上高

テーマパーク事業では、入園者数、ゲスト1人当たり売上高ともに前年度を上回ったほか、東京ディズニーシー・ホテルミラコスタの売上高も増加しました。一方で、リテイル事業の売上高は減少したものの、その他の事業の好調もあり、売上高は前年度比3.4%増となりました。

Point 2 営業利益

テーマパーク事業において、売上高の増加に加えて、費用の抑制に努めたことや、その他の事業において前年度発生したアニメーション制作費用が未発生だったことなどから、営業利益は前年度比11.5%増となりました。

Point 3 当期純利益

リテイル事業において、不採算店舗の退店費用や商品倉庫整理関連費用が発生したことや、投資有価証券評価損を特別損失に計上したことなどにより、当期純利益は前年度比3.9%増となりました。

Point 4 現金及び現金同等物の 期末残高

営業活動によって得られたキャッシュを、東京ディズニーリゾート各施設への投資や、運用資産の取得、社債の償還に充当したことなどにより、期首残高から374億円減少しました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

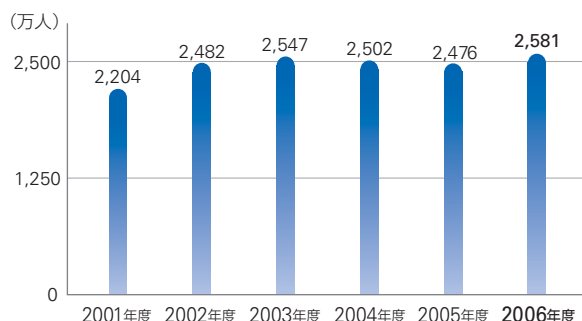
	2006年度	2005年度	増減	増減比
① 売上高	344,082	332,885	11,197	3.4%
売上原価	276,855	269,680	7,174	2.7
売上総利益	67,226	63,204	4,022	6.4
販売費及び一般管理費	33,116	32,600	515	1.6
② 営業利益	34,110	30,604	3,506	11.5
営業外収益	1,441	1,341	100	7.5
営業外費用	5,364	5,259	105	2.0
経常利益	30,187	26,686	3,500	13.1
特別利益	181	—	181	—
特別損失	1,505	238	1,266	530.1
税金等調整前 当期純利益	28,863	26,447	2,415	9.1
法人税、住民税 及び事業税	14,284	10,822	3,461	32.0
法人税等調整額	△ 1,738	△ 85	△ 1,653	—
少数株主利益	8	6	2	42.6
③ 当期純利益	16,309	15,703	605	3.9

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2006年度	2005年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	66,503	59,169	7,334
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 67,919	△ 63,587	△ 4,331
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 36,038	30,158	△ 66,197
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	10	△ 6
現金及び現金同等物の増減額	△ 37,450	25,751	△ 63,201
現金及び現金同等物の期首残高	84,328	58,577	25,751
④ 現金及び現金同等物の期末残高	46,878	84,328	△ 37,450

テーマパーク合計年間入園者数の推移



連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2006年度末	2005年度末	増減
資産の部			
流動資産	103,725	135,061	△ 31,336
現金及び預金	25,393	47,833	△ 22,439
有価証券	44,472	40,788	3,684
その他	33,859	46,439	△ 12,580
固定資産	596,047	583,786	12,261
有形固定資産	526,216	518,936	7,280
建物及び構築物	327,654	325,184	2,469
機械装置及び運搬具	62,693	62,878	△ 184
土地	93,301	94,384	△ 1,083
その他	42,567	36,488	6,078
無形固定資産	13,738	13,172	565
投資その他の資産	56,092	51,677	4,414
繰延資産	—	18	△ 18
資産合計	699,772	718,865	△ 19,093
負債の部			
流動負債	73,520	96,833	△ 23,312
一年以内に償還する社債	—	30,000	△ 30,000
その他	73,520	66,833	6,687
固定負債	241,251	246,086	△ 4,834
社債	169,984	170,000	△ 15
長期借入金	50,000	50,000	—
その他	21,266	26,086	△ 4,819
負債合計	314,771	342,919	△ 28,147
純資産の部			
株主資本	378,270	366,780	11,490
資本金	63,201	63,201	—
資本剰余金	111,403	111,403	—
利益剰余金	233,932	222,439	11,493
自己株式	△ 30,265	△ 30,263	△ 2
評価・換算差額等	6,588	9,052	△ 2,464
その他有価証券評価差額金	6,348	9,052	△ 2,704
繰延ヘッジ損益	240	—	240
少数株主持分	141	113	27
純資産合計	385,000	375,946	9,054
負債純資産合計	699,772	718,865	△ 19,093

(注) 1. 掲載した連結財務諸表は、主要な項目を表示しています。また、すべて単位未満を切り捨てて表示しています。

2. 「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」の適用に伴い、貸借対照表の記載方法が変更されました。そのため前年度末の計数を組み替えて表示しています。

Point 5
流動資産

6月に第2回無担保社債(300億円)を償還したことに伴い、現金及び預金が減少したほか、運用資産の減少に伴い、その他の流動資産が減少したことなどにより、前年度末比23.2%減となりました。

Point 6
固定資産

東京ディズニーリゾート各施設の減価償却が進んだ一方、2008年度開業の東京ディズニーランドホテルなどの設備投資を行ったことなどから、有形固定資産は増加しました。また、債券の取得に伴い、投資有価証券が増加したことなどにより、前年度末比2.1%増となりました。

Point 7
有利子負債

当年度末の有利子負債残高は、社債の償還や借入金の返済などにより、前年度末比11.7%減の2,356億円となりました。

Point 8
負債合計

第2回無担保社債を償還したことや、保有有価証券の時価下落などによって繰延税金負債が減少したことなどにより、前年度末比8.2%減となりました。

Point 9
純資産合計

利益剰余金が増加したことなどにより、前年度末比2.4%増となりました。自己資本比率は55.0%(2.7ポイント増)となりました。



新中期経営計画「Innovate OLC 2010」を策定 ～“涙が出るくらい”の感動を創造し続けます～

2010年度までの4年間で新たな成長に向けた取り組みを推進する期間とし、利益成長と更なる株主還元の実現とともに、“涙が出るくらい”の感動創造に向けてまい進してまいります。

株主・投資家の皆さま、こんにちは。

東京ディズニーシーが5周年を迎えた2006年度は、2つのテーマパーク合計入園者数が過去最高を記録することができ、その結果、連結業績においては増収増益となりました。これも一重に、ゲストや株主をはじめとする皆さまのおかげだと考えております。心より厚く御礼申し上げます。

さて、オリエンタルランドグループ(OLCグループ)は、本年5月に2007年度から2010年度までの中期経営計画「Innovate OLC 2010」を発表いたしました。本計画の骨子は、この4年間で「OLCグループの新たな成長に向けた取り組みを推進する期間」と位置づけ、利益成長と適正な資源配分により長期的に安定した成長を可能にする経営基盤をつくりあげるとともに、“涙が出るくらい”の感動を創造し続けることです。

今後サービス業は、顧客の価値観の更なる多様化、少子高齢化に伴う顧客層および雇用環境の変化といった日本の構造的な問題に直面し、OLCグループを取り巻く環境は、これまで以上に大きく変化することが想定されます。このような環境認識に基づき、「Innovate OLC 2010」においては、3つの基本方針を掲げました。(詳しくは6ページからの特集をご参照ください)

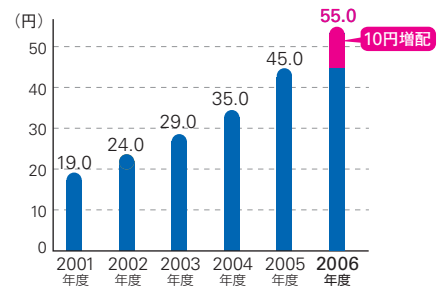
また、2010年度の目標値として、「連結当期純利益270億円レベル」を掲げ、年平均13%レベルの利益成長を目指します。2007年度は、東京ディズニーシー5周年の翌年であることなどから、短期的には減益となる見通しですが、中期的には着実な利益成長を遂げてまいります。また、2007年度より「連結配当性向35%以上」とすることを目標とし、これまで以上に株主の皆さまへの直接的な利益還元に努めてまいります。この「Innovate OLC 2010」を着実に推進し、あらゆるステークホルダーから信頼と共感を集め、社会に必要とされる企業であり続けることを目指します。今後も、OLCグループにご期待くださいますようお願い申し上げます。

2007年7月

代表取締役社長(兼)COO

福島祥郎

1株当たりの年間配当金



**2006年度の年間配当金は、
1株につき55円(前年度より10円増配)**

2006年度末の配当につきましては1株につき30円、中間配当とあわせて年間55円(前年度より10円増配)とさせていただきます。なお、2007年度の配当につきましては、1株につき年間55円を予定しています。



<長期的に目指す姿>

コア事業

- 東京ベイエリアの中心的な役割
- 親しみある空間の提供
- 持続的に高水準な利益を創出

事業開発

- 「夢・感動・喜び・やすらぎ」を提供する「空間創造事業」が「東京ディズニーリゾートに続く事業」として成長

OLCグループ

- あらゆるステークホルダーから信頼と共感を獲得
- その成果であるキャッシュ・フローの最大化
- 全従業員が事業を通じて「働く喜び、働く誇り」を実感

Innovate OLC 2010

2007年度～2010年度

<中期経営計画の基本方針>

コア事業
(東京ディズニーリゾート)
の更なる強化
「利益成長を目指す」

クオリティの向上

ターゲットの明確化

コストの効率化

新たな成長基盤の確立

「2010年度までに東京ディズニーリゾートに
続く事業を定める」

事業開発方針の策定

事業開発に関する意思決定フローの整備

有利子負債の削減

OLCグループ価値の向上

「あらゆるステークホルダーから
信頼と共感を集める」

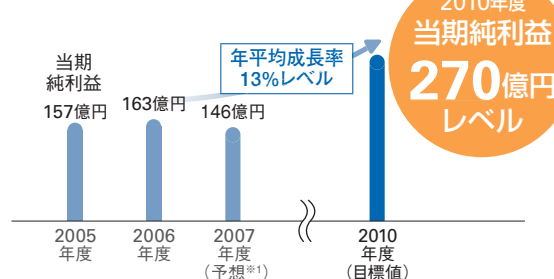
株主還元

人財育成

CSR

目標値

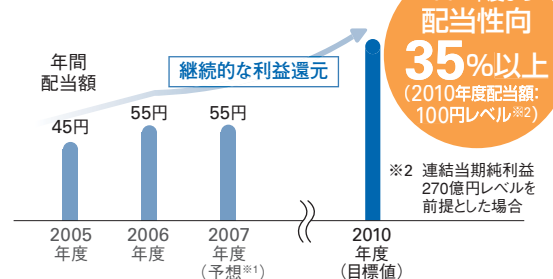
■ 利益成長



※1 2007年5月時点予想

目標値

■ 株主還元重視



※1 2007年5月時点予想

「Innovate OLC 2010」の全体構成:

OLCグループは、長期的に目指す姿へのステップとして、中期経営計画「Innovate OLC 2010」をスタートさせました。その骨子は、コア事業である東京ディズニーリゾートの更なる強化により利益を成長させ、増加するフリー・キャッシュ・フローを株主還元と新たな成長基盤の確立へ充当していくというものです。

コア事業(東京ディズニーリゾート)の更なる強化による利益の成長

クオリティの向上

ソフトとハードの両面で、ほかでは味わえないユニークで魅力的な体験を提供することで、圧倒的な優位性を築くことを目指します。

●ホスピタリティあふれる人財の獲得、育成、定着化へ

テーマパークのクオリティはソフトとハードで成り立っていますが、その両方を支えているのが「人」です。つまり、「人」こそが、当社の強みの源泉であると言えます。

顧客満足度の向上のためには、キャストが気持ちよくサービスを提供するための環境整備が必要であるという観点から、従業員満足度(ES)の向上に努め、更なるマネジメント力の強化を行っていきます。

加えて、キャストの定着化促進やキャスト雇用の確保に向けた取り組みを、これまで以上に強化し、今後想定される雇用環境の変化に対応していきます。



創り手の思い

常務執行役員
リゾートクリエイティブ部・CS推進部担当
田丸 泰



東京ディズニーリゾートは、来年4月に25周年を迎えます。1983年に東京ディズニーランドが開園して以来、尽きることのない夢や感動をゲストの皆さまに体験して頂きたいという思いのもと、さまざまな魅力を加え、テーマパークからテーマリゾートへと成長してまいりました。

25年という歳月を、皆さまはどのようにお感じになりますか。あっという間に過ぎてしまったような25年ですが、そこには実に多彩な思い出があるのではないのでしょうか。皆さまの大切な思い出の中には、ここ東京ディズニーリゾートを舞台にしたものがあるかもしれません。私たちは、東京ディズニーリゾートがゲストの皆さまの大切な思い出づくりの舞台であり続けるよう、

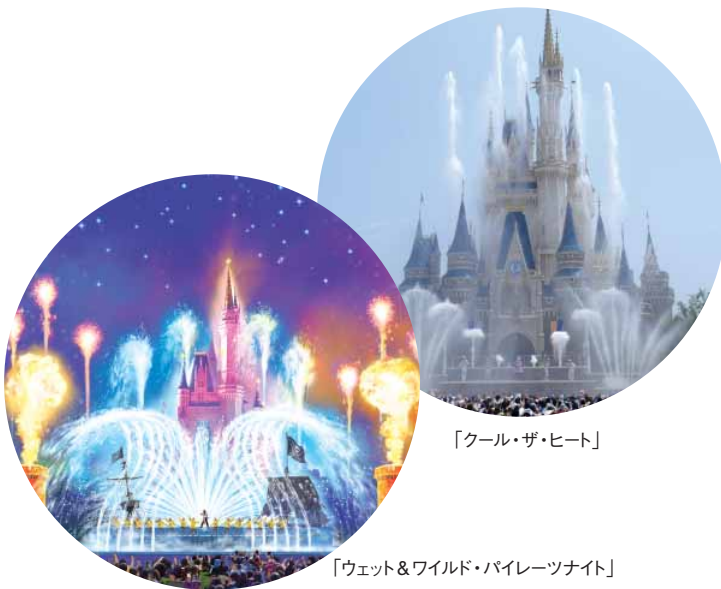
努めていきたいと考えています。また、東京ディズニーリゾートが、大切な方との絆を深め、明日の活力につながる思い出を綴ることができるような舞台であり続けていきたいと願っています。

そこで、2008年度に行う東京ディズニーリゾート25周年キャンペーンでは、私たちキャストを起点とした心のふれあいを通じて、ゲストの皆さまに忘れられない体験をして頂きたいと思っており、東京ディズニーリゾートが心温まる素晴らしい舞台となるような、さまざまな仕掛けを考えています。是非皆さまにもこのような舞台の主役として心にひびく体験や再発見をして頂きたいと思っています。

●卓越したサービスクオリティで、ゲストの体験価値の向上へ

テーマパーク全体の顧客志向をさらに高めていきます。そのためにまず、新しい調査方法を採用入れることで、より本音に近いゲストの声を吸収しながら、雨や暑さといった天候要因によるものや混雑感など、ゲストが不満に思う要素をパーク全体の取り組みによって取り除いていきます。例えば、「暑さ」からくるゲストの不満の低減に向けた取り組みの積極的一例として、2006年度に好評だったウォータープログラム「クール・ザ・ヒート」に加え、2007年度は夜間にも大量の水を使った「ウェット&ワイルド・パイレーツナイト」の開催を決定しています。

また、例えば「何となく心地良い場所にいたい」というような、ゲストの潜在的な欲求にも応えていきます。そのために美的なものや、知的なものを新たな体験価値として提供することで、「夢・感動・喜び・やすらぎ」、さらには知性・創造性・道徳性といった深層的な充足感を生み出せるよう努めていきます。



●ハード面での拡充(9ページとあわせてご覧ください)

東京ディズニーリゾートが25周年を迎える2008年度には、東京ディズニーランドホテルの開業とシルク・ドゥ・ソレイユ専用劇場の開設を予定しています。そのほかにも継続的なハード面のクオリティ向上を図り、東京ディズニーリゾート全体としての魅力拡充への貢献、そして各コンテンツを有機的に組み合わせた魅力的な商品提案をすることで、新たな顧客層の獲得へと、好循環を生み出していきます。

ターゲットの明確化

各ターゲットニーズにあわせた価値提供により、入園者数の水準を段階的に上げていくことを目指します。

各顧客セグメントのニーズにあった価値を提供することで、マーケットの拡大を目指していきます。従来も今後もメインターゲットであるファミリー層については、例えばお子さんの年齢による細分化などを行い、それぞれに応じた取り組みを強化していきます。また、新規マーケットであるニューエイジング層(お子さんが手を離れて、いよいよご自身を主役として訪れることができる層)については、マーケット育成のための継続的な取り組みを行っていきます。

また、団体や宿泊といった、天候要因などの外部環境に左右されにくい、来園確約型の集客を強化していきます。

コストの効率化

コスト効率化とテーマパークにおける減価償却費の減少で、安定的に必要な利益を生み出していきます。

クオリティの向上と必要な利益の安定的創出を両立させる、コストの効率化を図っていきます。

まず、ゲスト体験価値への影響が少ない活動についての見直しや、オペレーション効率向上による労働時間低減などを通じて、固定費の抑制や、労働生産性の向上を図ります。

さらに、OLCグループ全体でのスケールメリットを活かした共同購買などでコスト削減を図ることに加え、管理・企画部門のスリム化による人財の再配分にも積極的に取り組んでいきます。

また、東京ディズニーシーの減価償却費は、2009年度から大幅な減少局面に入ります。

売上高の着実な増加と営業利益率の向上によって、2010年度には連結当期純利益270億円レベルを目指します。

ハード面での拡充

●東京ディズニーシー

「シンドバッド・ストーリーブック・ヴォヤッジ」
リニューアル(2007年3月～)

●東京ディズニーランド

「東京ディズニーランド・エレクトリカルパレード・
ドリームライツ」リニューアル(2007年3月～)

【2007年度】

●東京ディズニーランド

「スペース・マウンテン」リニューアル(2007年4月～)

「カリブの海賊」リニューアル(2007年7月～)

【2008年度】

東京ディズニーリゾート25周年

東京ディズニーランドホテル オープン

シルク・ドゥ・ソレイユ専用劇場 オープン

【2009年度】

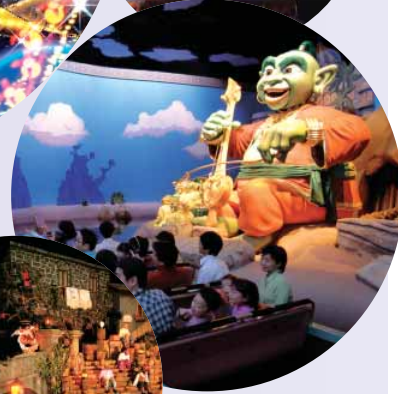
●東京ディズニーランド新規アトラクション

ディズニー／ピクサー映画
『モンスターズ・インク』の世界を体験



「東京ディズニーランド・エレクトリカル
パレード・ドリームライツ」

「スペース・マウンテン」



「シンドバッド・
ストーリーブック・
ヴォヤッジ」



ディズニー／ピクサー映画
『モンスターズ・インク』の
世界が体験できる
アトラクション

©Disney/Pixar



「カリブの海賊」



■ 東京ディズニーランドホテル



■ シルク・ドゥ・ソレイユ専用劇場

Copyright 2006, THE WALT DISNEY COMPANY. CIRQUE DU SOLEIL, INC. Costumes: Dominique Lemieux

創り手の思い

取締役執行役員
株式会社ミリアルリゾートホテルズ
代表取締役副社長
高野 由美子



OLCグループ企業である株式会社ミリアルリゾートホテルズの社名には、お越し頂いたゲストにかけがえない思い出をお持ち帰り頂きたい、という願いが込められています。「ミリアル(milial)」は、「familial(＝家族の)」と「memorial(＝記念品、記念日)」からイメージを抽出した造語です。ご家族の成長に伴うさまざまなライフステージにおいて、そのすべての瞬間と出会い、“特別な何か”を提供して“かけがえない思い出”へ変えていくことをビジョンとしています。

2008年度に誕生する「東京ディズニーランドホテル」でも、この思いをハード・ソフト両面において存分に表現してまいります。特にハード面では、東京ディズニ-

ランドのワールドバザールエリアと同じエレガントなヴィクトリア朝様式でデザインすることで、パークからホテルのエントランスまで、ディズニーの世界観が途切れることなく展開されます。「東京ディズニーランド」の名前を冠したホテルならではの臨場感とワクワクするような感動を味わって頂きたいと思っています。

また、ソフト面では、皆さまとの心のふれあいを何よりも大切にしたい私たちキャストのサービスに加えて、ほかのどこでもない、ここ東京ディズニーリゾートならではの強みを最大限に活かし、ゲストの皆様には日常を離れた夢の世界にいるような体験をお届けします。どうぞご期待ください。

新たな成長基盤の確立

OLCグループの企業使命である、「夢・感動・喜び・やすらぎ」を提供する“空間”を創造する事業を、東京ディズニーリゾートに続く事業として開発していきます。

●事業開発方針の策定

人と人とのコミュニケーションと、それを演出する空間によって生み出される、OLCグループならではの価値を提供していきます。日本国内での事業開発を優先し、他社との提携についても積極的に検討していきます。

さらに、ディズニー社とのパートナーシップを一層強化し、共同での事業展開を検討中です。現時点で本格的な検討段階に入っているものは、「都市型エンターテインメント施設」に関するプロジェクトです。この施設は、ディズニーならではの演出が施された屋内型エンターテインメント施設で、2010年度以降、大都市中心部（関東圏以外）での開設を検討しています。このほかにもディズニー社とはさまざまな事業展開の可能性を探求していきます。

そして、「心の活力創造事業」のドメイン内で、将来の更なる成長に向けた事業の研究も、並行して推進していきます。

●事業開発に関する意思決定フローの整備

事業の目的別に評価基準を定め、評価結果に応じて早期のリプランへとつなげていくなど、事業開発を進めていくための仕組みを整備しています。

●有利子負債の削減

新たな成長に向けた投資余力を確保するため、有利子負債を削減していきます。



OLCグループ価値の向上

株主還元を重視した取り組みの実施、人財の育成、CSR活動の推進を通じて、あらゆるステークホルダーの皆さまからの信頼と共感を集めていきます。

●株主還元

「OLCグループの新たな成長に向けた取り組みを推進する期間」と位置づけた2010年度までの4年間に於いて、現時点では新たな成長につながる大規模な事業開発投資の実施を計画していないため、株主の皆さまに対する直接的な利益還元への配分比率を高める方針です。

また、自己株式の取得についても検討するなど、ROE（自己資本当期純利益率）の向上を目指していきます。なお、保有自己株式のうち、500万株（消却前発行済株式総数の約5%）については本年6月に消却しました。

**株主の皆さまへの直接的な利益還元を重視し、
2007年度から連結配当性向35%以上を目標とします。**

※2010年度に目標とする連結当期純利益270億円レベルでは、1株当たり年間配当額は100円レベルを想定。

●人財育成

「現場の核となる人財」、「社外でも競争力のある人財」、そして「クリエイティブ能力をさまざまな事業機会に有効活用できる人財」を育てることを方針に掲げ、育成に必要な環境整備に取り組んでいきます。

●CSR

OLCグループの価値を高めるためには、経済的価値の向上とともに、社会的視点からの付加価値の向上も欠かせません。

法令遵守といったステークホルダーからの信頼基盤の確立への取り組みとともに、「家族の絆」と「学び」など、OLCグループの強みを発揮することができるものをテーマとして活動していきます。そして、従業員がCSRの観点から自らの業務の社会的意義を認識することで、OLCグループに対する誇りと共感につなげていきます。このような本業の強化と社会貢献につながるCSR活動を推進していくことで、OLCグループ価値の向上を目指していきます。

東京ディズニーリゾートは、季節にあわせた魅力あふれるさまざまなプログラムでいっぱいです。今後のイベントをご案内します。

6月

7月

8月

9月

10月

春のスペシャルイベント

- 「リロ&スティッチのフリフリ大騒動 ~Find Stitch!~」**2007.4.10~7.19**

今年もスティッチがハワイアンムードいっぱいの東京ディズニーランドにやってきます。ゲストとオハナ*になるうと張りきりますが、パークはハチャメチャに。ディズニーの仲間たちにスティッチのイトコたちも勢揃いで加わり繰り広げる愉快な大騒動をお楽しみください。

※“家族のような存在”という意味のハワイ語

夏のスペシャルプログラム

- 「クール・ザ・ヒート」**2007.7.20~8.31**
ディズニーの仲間たちが爽快なリズムにあわせ水を振りまき、ゲストも巻き込み大はしゃぎ!
- 「グーフィーのクールパニック」**2007.7.20~8.31**
グーフィーが発明した雨雲リサイクルマシンが大暴走!パレードルートを一気にクールダウンさせます。
- 「ウェット&ワイルド・パイレーツナイト」**2007.7.20~8.31**
花火に替わる新たな夜のエンターテインメント。
キャプテン・ジャック・スパロウと
荒くれ者の海賊たちが大活躍!

秋のスペシャル

- 「ディズニー・ハロウィーン」**2007.9.12~10.31**
すっかりおなじみとなった、東京ディズニーランドならではの愉快で楽しいハロウィーン・パーティー。ハロウィーンにちなんだ仮装をしたディズニーの仲間たちが、ハロウィーン・パーティーを盛り上げます。

東京ディズニーランド

東京ディズニーシー

東京ディズニーリゾート

東京ディズニーランド/東京ディズニーシー共通 夏のスペシャルプログラム

- 「ディズニーキッズ・サマーアドベンチャー」**2007.7.20~8.31**
アドベンチャーマップを手にしたら、早速冒険に出発!
小学生以下のお子さんが対象です。

夏のスペシャルプログラム

- 「チップとデールのクールサービス」**2007.7.20~8.31**
水しぶきに要注意!ハチャメチャなリードとドラムのリズムにあわせて、チップとデールが勢い良く水を撒き散らします。
- 「ボンファイアーダンス」**2007.7.20~8.31**
花火に替わる新たな夜のエンターテインメント。異国情緒あふれる熱気に満ちた夏祭り!
- 「カストーディアル・キッズ!パークをきれいにする魔法」**2007.7.20~8.31**
楽しい体験の中に学びの機会が組み込まれたプログラムです。(有料)

秋のスペシャル

- 「フード&アートフェスティバル」**2007.9.12~10.31**
ディズニーならではの物語性にあふれるプログラムで演出するフードセレブレーション。食を彩る陽気なエンターテインメントやスタイリッシュなアートとともに東京ディズニーシースタイルで秋をお届けいたします。

ディズニーアンバサダーホテル

- 「パイレーツ・テイストリートレジャー」**2007.7.1~9.11**
カリブ海沿岸のパイレーツたちも食べていたと言われるクレオール料理のご提供や、レストランのデコレーションに宝箱や船の帆を飾るなど、“パイレーツ(海賊)”をテーマにしたレストランイベントを開催いたします。
- 「ディズニーアンバサダーホテル7周年記念 ピンプレゼント」**2007.7.1~9.11**
2007年7月7日(土)に迎える7周年をお祝いして、ホテルのレストランでスペシャルメニューをご注文の方に、7周年限定ピンをプレゼントいたします。(数に限りがございます。)

6月

7月

8月

9月

10月

さまざまなスペシャルイベントや

11月

12月

イベント

冬のスペシャルイベント

「クリスマス・ファンタジー」

2007.11.7～12.25

ワールドバザール中央の巨大なクリスマスツリーや数えきれないほどのイルミネーションが飾られるパークでは、クリスマスソングにのせたさまざまなショーや、賑やかなパレードが繰り広げられ、ファンタジーあふれるクリスマスをお届けします。

東京ディズニーランド・
カウントダウン・プレビューナイト2008
(12月28日、29日)

東京ディズニーランド・
カウントダウン・パーティー2008
(12月31日)

イベント

冬のスペシャルイベント

「ディズニー・ア・ラ・カルト」

「ハーバーサイド・クリスマス」

2007.11.7～12.25

アメリカンウォーターフロントのクリスマスツリーや、きらめくイルミネーションで装飾されたパークでは、いたるところでクリスマスならではのエンターテイメントが繰り広げられ、ロマンチックな“海と街のクリスマス”をお楽しみ頂けます。

東京ディズニーシー・
ニューイヤーズ・イヴ・
セレブレーション2008
(12月31日)

※ アトラクション、ライブエンターテイメントなどの開催は、天候その他の理由により変更または中止になる場合があります。
※ イベントの名称、開催期間および内容は変更になる場合があります。

写真は
イメージです。

11月

12月

インフォメーション

東京ディズニーリゾート情報

東京ディズニーリゾート・オフィシャルホームページ

URL

www.tokyodisneyresort.co.jp



※インターネット対応携帯電話からもご覧頂けます。
※トップページの画像などは随時更新されます。

お問い合わせ

東京ディズニーリゾート・インフォメーションセンター

総合案内 TEL: 0570-00-8632 (9:00～19:00)
音声情報サービス TEL: 0570-00-3932 (24時間)

宿泊などの ご予約

東京ディズニーリゾート総合予約センター

TEL: 045-683-3333
9:00～21:00 宿泊のご予約・宿泊に伴うレストランのご予約
10:00～21:00 レストランのご予約全般

ご意見

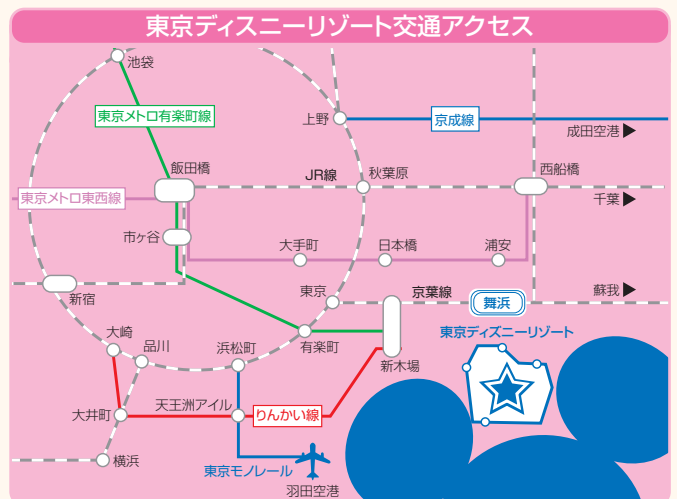
東京ディズニーリゾート・ゲストご相談室

TEL: 047-310-0733 (9:00～18:00)

交通情報

東京ディズニーリゾート交通情報テレホンサービス

TEL: 0570-00-3388 (24時間)



アンケートのご質問にお答えします。

OLCグループは、株主通信を株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションツールとして充実させていきたいと考えています。ぜひ、添付のアンケートはがきでご意見・ご質問をお寄せください。頂戴したお声は本誌上および当社IRサイト(www.olc.co.jp/ir)で、可能な限り回答させて頂くとともに、経営に反映させるよう努めています。

なお、個人情報保護の観点から、氏名などの個人情報記入欄を廃止しました。

前回アンケート結果 回答総数3,631通

内容が良かったページ(複数回答可)

今後の成長戦略	1,790人
イベントカレンダー	1,710人
カラフル	1,049人
決算情報	1,028人
当中間期のハイライト	1,020人
OLCフォーラム	741人
その他	167人

配当など株主還元の方針について教えてください。(岡山県／60代男性)

OLCグループは、株主の皆さまへの利益還元を経営の重要政策の一つと認識しており、本年策定しました新中期経営計画「Innovate OLC 2010」※において、2007年度より「連結配当性向35%以上」を目標とし、継続的な利益還元に努めていく方針を定めました。また、自己株式の取得につきまして

も、機動的に対応していきたいと考えております。なお、2006年度の配当は、1株につき前年度に比べ10円増配の年間55円とし、加えて自己株式500万株の消却を6月に実施しました。

※「Innovate OLC 2010」における株主還元方針につきましては、10ページをご覧ください。

10歳の娘が卵アレルギーですが、そういった食物アレルギーのあるゲストに対し、どのような対応をしていますか？(栃木県／40代女性)

東京ディズニーランド、東京ディズニーシーでは、食物アレルギーをお持ちの方が、ご家族やご友人と一緒に食事をお楽しみ頂けるよう、一部のレストランにて5大アレルギー(小麦、そば、卵、乳、落花生)を使用していない「低アレルギーメニュー」をご用意しております。なお、ご注文にあたってはいくつかの留意事項がございます。また、取扱い店舗とメニュー内容などの詳細については、東京ディズニーリゾート・オフィシャルホームページでご確認頂けます。



IRサイトでご覧頂ける資料が増えました！

● www.olc.co.jp/ir

2007年5月より新たに、機関投資家・アナリストの方々を対象に行っている決算説明会資料の掲載を始めました。解説付の資料もあわせて掲載するなど、より多くの方にわかりやすくOLCグループの状況をお伝えしていきます。これからも皆さまのご意見を参考に、ホームページの充実化を進めていきます。なお、OLCグループはホームページだけでなく、冊子での情報提供も重要視しており、「株主通信」は今後も継続的に発行する予定です。



● <http://www.olc.co.jp/ir/presentation.html>

会社情報

会社概要

商 号 株式会社オリエンタルランド

証券コード 4661

設 立 1960年7月11日

本社所在地 〒279-8511 千葉県浦安市舞浜1番地1

総 資 産 694,918百万円

代 表 者 福島 祥郎

従業員数 2,163名

事業内容 テーマパークの経営・運営

主要取引銀行 株式会社みずほコーポレート銀行

中央三井信託銀行株式会社

格 付 AA (JCR 日本格付研究所)

AA- (R&I 格付投資情報センター)

連結子会社 20社

役員

取締役・監査役

加賀見俊夫 代表取締役会長(兼)CEO
福島 祥郎 代表取締役社長(兼)COO
長岡 彰夫 代表取締役副社長
砂山 起一 代表取締役
柴 洋二郎 取締役
高桑 誠 取締役
入江 教夫 取締役
大和田 誠 取締役
鈴木 茂 取締役
高野由美子 取締役
上西京一郎 取締役
田中順一郎 取締役(社外)
花田 力 取締役(社外)
戸村 光夫 常勤監査役(社外)
土屋 文夫 常勤監査役
大塚 弘 監査役(社外)
岩沙 弘道 監査役(社外)

執行役員

福島 祥郎 社長執行役員
長岡 彰夫 副社長執行役員
砂山 起一 専務執行役員
柴 洋二郎 専務執行役員
岡村 健 常務執行役員
高桑 誠 常務執行役員
田丸 泰 常務執行役員
入江 教夫 常務執行役員
大和田 誠 執行役員
佐藤 健司 執行役員
鈴木 茂 執行役員
高野由美子 執行役員
上西京一郎 執行役員
菊池 和年 執行役員
宇田川勝久 執行役員
水嶋健次郎 執行役員
高延 博史 執行役員
永嶋 悦子 執行役員
安岡 譲治 執行役員

(2007年6月28日現在)

株式情報

株式の状況

資 本 金 63,201百万円

発行済株式総数 100,122,540株

株 主 数 117,657名

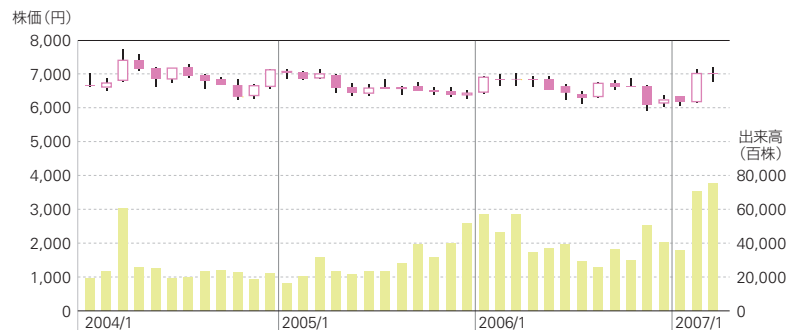
大 株 主

株主名	所有株式数(千株)	出資比率(%)
京成電鉄株式会社	19,435	20.43
三井不動産株式会社	15,180	15.95
千葉県	3,300	3.46
京成開発株式会社	1,980	2.08
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,927	2.02

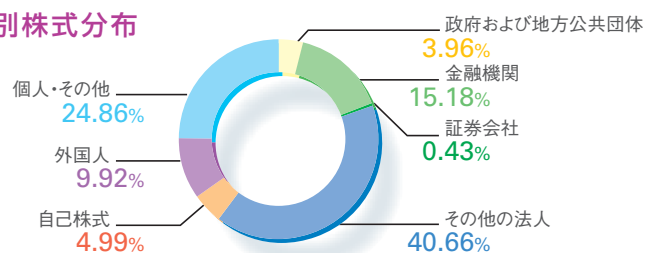
(注) 出資比率はOLCが所有する自己株式(5,002千株)を控除して計算しております。また、当該株式には議決権がないため、上記大株主から除外しております。

株価および出来高の推移

(2007年3月31日現在)



所有者別株式分布



(自己株式につきましては本年6月に消却いたしました。)

株主の皆さまへのお知らせ

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
同総会議決権行使株主確定日	3月31日
利益配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
その他の基準日	
上記のほか必要ある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定	

株券の電子化について

株券の電子化が2009年6月までに実施*されます。株券をお手元(自宅、貸金庫など)にお持ちの場合は、ご本人名義になっているかご確認ください。ご本人名義になっている場合は株主の権利は失われませんが、そのままでは株式の売買はできませんのでお取引証券会社に移す必要があります。ご本人名義になっていない場合は株主の権利を失うおそれがありますので、名義書換についてはお取引証券会社または中央三井信託銀行株式会社証券代行部(電話0120-78-2031)にお問い合わせください。なお、証券会社を通じて証券保管振替制度をご利用頂くと、ご本人による名義書換手続きが不要となります。株券を証券会社(証券保管振替機構)にお預けの場合は、特段の手続きは必要ありません。株主の権利は自動的に確保されます。 ※具体的な実施日は政令で決定されます。

株主優待のお知らせ

2007年9月末日および2008年3月末日の年2回を割当基準日とし、その時点における所有株式数(株主名簿、実質株主名簿双方に記載のある場合は名寄せした合計の株式数)に応じて、株主用パスポート(「東京ディズニーランド」または「東京ディズニーシー」)どちらかのパークで利用可能な1デーパスポート／有効期限:1年、使用不可日:12月31日などの特別営業時間帯)をお配りいたします。なお、「入場制限」を実施している時間帯はご利用頂けませんのであらかじめご了承ください。

2007年3月末日現在の対象株主の皆さまには、株主用パスポートを2007年6月4日に発送いたしました。



	2007年9月末日	2008年3月末日	合計
100株以上	1枚	1枚	2枚
200株以上	2枚	2枚	4枚
300株以上	3枚	3枚	6枚
400株以上	4枚	4枚	8枚
500株以上	5枚	5枚	10枚
3,000株以上	6枚	6枚	12枚

諸手続きメモ

◆株主用パスポートについて

2007年6月4日発送の株主用パスポートがお手元に届かない場合、7月3日までは中央三井信託銀行株式会社証券代行部(TEL: 0120-78-2031)へ、7月4日以降は株式会社オリエンタルランド総務部総務グループ(TEL: 047-305-3017)へお問い合わせください。

◆住所など変更手続きについて

住所、氏名、届出印、配当金の振込口座などの変更は、中央三井信託銀行株式会社証券代行部へご連絡ください。保管振替制度を利用され、お手元に株券がない方はお取引証券会社にお申し出ください。

◆配当金について

配当金郵便振替支払通知書をお近くの郵便局へお持ちください。今後、銀行口座または郵便貯金口座への振込をご希望の方は、中央三井信託銀行株式会社証券代行部へ「配当金振込指定書」をご請求ください。

◆払渡期間経過後のお取り扱い

郵便振替支払通知書の裏面に受取方法を指定し、中央三井信託銀行株式会社証券代行部までご郵送頂くか、同銀行全国各支店窓口にてお受け取りください。

◆株券を喪失した際の手続きについて

株券を喪失された場合は、中央三井信託銀行株式会社証券代行部までお問い合わせください。

株主名簿管理人

東京都港区芝3丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱所

〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
TEL: 0120-78-2031 (平日9:00～17:00)

同取次所

中央三井信託銀行株式会社本店および全国各支店
日本証券代行株式会社本店および全国各支店

各種情報・お問い合わせ先

株式会社オリエンタルランド会社情報

株式会社オリエンタルランド・ホームページ

URL
www.olc.co.jp

※過去の株主通信もご覧頂けます。
※トップページの画像などは随時更新されます。

株式全般に関するお問い合わせ

株式会社オリエンタルランド 総務部総務グループ

TEL: 047-305-3017 (平日9:00～17:30)

株主通信およびアンケートに関するお問い合わせ

株式会社オリエンタルランド 経理部IRグループ

TEL: 047-305-2035 (平日9:00～17:30)

電話番号はおかけ間違いのないようお願いいたします。

免責事項

本誌にはさまざまな予測や見通しが含まれています。当社の事業は、顧客嗜好、社会情勢、経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っています。従いまして、本誌で述べられている予測や見通しには不確実性が含まれていることをご承知おください。

The copyrights to the Disney characters and scenes from Tokyo Disneyland, Tokyo DisneySea, Disney Ambassador Hotel, Tokyo DisneySea Hotel MiraCosta, Disney Resort Line and Disney Store Japan are owned by Disney Enterprises, Inc. ©Disney Enterprises, Inc.



株式会社オリエンタルランド

〒279-8511 千葉県浦安市舞浜1-1



お紙袋有市70%の再生紙を使用しています



この冊子は70%再生紙とアメリカ大豆協会認定の大豆油インキを使用しております。